

【NINAGAWA 千の目^{まなざし}】

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

劇作家・演出家

蜷川幸雄 ✕ ケラリーノ・サンドロヴィッチ



特集1
『から騒ぎ』と『冬物語』の連続上演に
『喜劇』と『ロマンス劇』の関係を探る

特集2
2008-2009
クラシック・シーズンラインアップ

INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.17 Sep.-Oct.

ESSAY 03 彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面』

萩尾望都

TOPIC 04 彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾・21弾

『から騒ぎ』と『冬物語』の連続上演に “喜劇”と“ロマンス劇”の 関係を探る

TALK 08 公開対談 NINAGAWA 千の目 第15回 蜷川幸雄 ×

ケラリーノ・サンドロヴィッチ

DANCE 10 スペイン国立ダンスカンパニー『ロミオとジュリエット』

ナチョ・ドウアト インタビュー

DANCE 12 『日本昔ばなしのダンス』

近藤良平 × 森下真樹 インタビュー

MUSIC 14 2008-2009 クラシック・ シーズンラインアップ

20 EVENT CALENDER & TICKET INFORMATION

イベント・カレンダー 2008.9.15-11.30
前売りチケット発売情報(～11.15)
発売中公演情報

23 THEATER BRIDGE

募集など劇場からのご案内

24 Art Window

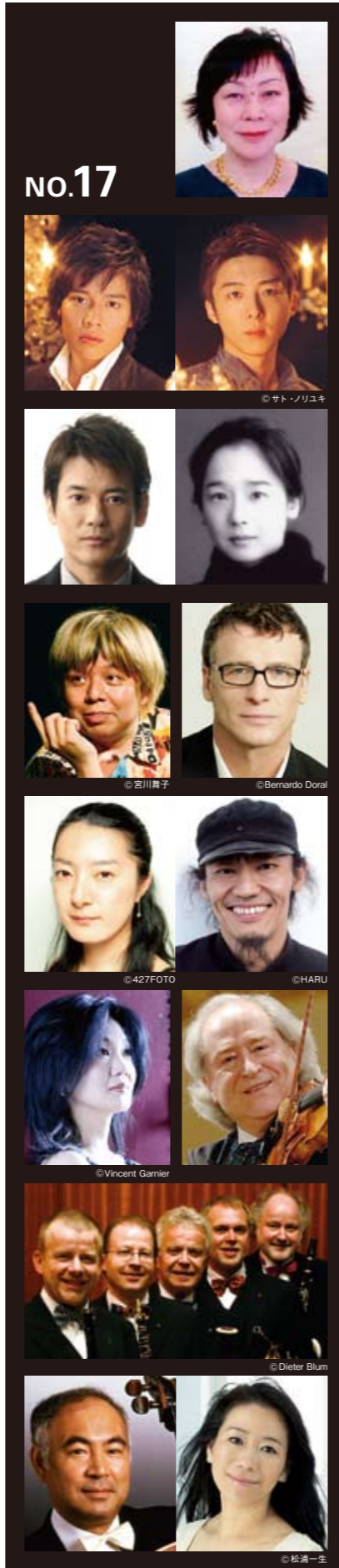
ロミオとジュリエット

表紙 ナチョ・ドウアト スペイン国立ダンスカンパニー『ロミオとジュリエット』

PHOTO: Fernando Marcos ILLUSTRATION: トビイ ルツ

編集: 横山雅美 © (財)埼玉県芸術文化振興財団

Published on 15. SEPTEMBER 2008 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation



〔原作〕美内すえ 〔脚本〕青木豪 〔演出〕蜷川幸雄 〔作曲〕寺嶋民哉
〔出演〕大和田美帆 奥村佳恵 川久保拓司 横田栄司 立石凉子 月影瞳 原康義 月宮悠貴 黒木マリナ 岡田正夏 夏木マリ
8月8日(金) 8月24日(日) 全22公演



はぎおもと 1949昭和24年5月12日生まれ。福岡県大牟田市出身。日本SFクラブ、日本漫画家協会に所属。主な作品
『ホーの一族』SF作品『11人いる』『トーマの心臓』『半神』『イクアナの娘』『マージナル』『メッシン』
『残酷な神が支配する』(2001年5月に完結) 第一回手塚治虫文化賞漫画優秀賞。
現在小学館『ワーズ』で猫マンガ『レオくん』を不定期連載中。

彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面』 8月12日公演より

萩尾望都

「ガラスの仮面」のミュージカルって、どんなのだろうと思って見に行ったのだが、イントロから躍動感あるダンスシーンにすうっと引き込まれていった。「コーラスライン」のような青春群像劇。原作は大長編だが、舞台では演劇のエピソードを五つほど選んで、主人公の北島マヤの成長とドラマの進行にあわせ、場面良く配置されていた。演劇のこっぴど頭のないマヤちゃんと、彼女に好きといたくできない桜小路くんのペアが可愛い。そして月影先生。「紅天女」の再演に情熱を傾ける往年の大女優。彼女を演じるのが夏木マリ。夏木マリが、原作のイメージを少しもそこなうことなく、あでやかに舞台上に立っている！月影先生が舞台上に登場するともう、何が起るのかとハラハラワクワク。あの半分隠されたお顔の美しい眼差しがキラリと光ると胸がドキドキ。「がんばって、月影先生、速水真澄に負けないで！あなたの夢のために、北島マヤをはやく育てて！」思わず応援コール。これはまるで執念の月影先生版悲しみの「ガラスの仮面」物語。ラスト、「紅天女」の絵がするりと天女の人間になって宇宙に浮かぶとき、見果てぬ夢が天に溶けていく。心も飛翔する印象的なシーンだ。2008年「ガラスの仮面」は、情熱と若さ、開放感の溢れる、楽しい舞台だった。

『から騒ぎ』と『冬物語』の連続上演に 喜劇とロマンス劇の関係を探る

初日に向けてキャストの意気込みも日々上昇中の『から騒ぎ』に続き、彩の国シェイクスピア・シリーズの次作、

第21弾『冬物語』が来年1月に上演されることが発表された。

シェイクスピア戯曲はもともと悲劇、喜劇、歴史劇の三つのジャンルに分かれていて、後に、晩年に書かれた作品群を区別してロマンス劇と総称するようになった。

『から騒ぎ』はもちろん喜劇。そして『冬物語』は、ロマンス劇に分類される。

ほかの三つに比べ、“ロマンス劇”という言葉はちょっとイメージがわきにくいかもしれないが、シェイクスピア晩年期の作品だけに、いわば集大成的な魅力が特徴といえる。

また、喜劇から枝分かれしてできたジャンルであるため、両者には共通点も多い。



喜劇の傑作、第20弾 『から騒ぎ』 Much Ado About Nothing

2組の対照的な若いカップルの織りなす人生の“彩り”。シェイクスピアならではの意外な展開が最後の大団円を盛り上げる

さまざまなタイプの喜劇がある中で、シェイクスピア喜劇は“ロマンティック・コメディ”と呼ばれている。若者たちのままならない恋愛を軸に、いろんな人間の思惑が絡んで騒動が起こり、もつれにもつれた後に大団円を迎えるというのが基本ライン。『から騒ぎ』はその代表作の一つで、家族の再会や妖精の世界といった他の要素が入っていない分、“恋愛喜劇”の真髄を楽しめる作品といっていだらう。顔を合わせれば口喧嘩ばかりだけれど、お互いに相手が気になって仕方ないのが一目瞭然のベネディックとピアトリス。好男子と淑女の理想的なカップルになるはずだったのに、そ

れを妬んだ人間の悪意により引き裂かれてしまうクローディオとヒアロー。 트렌ディ・ドラマにもありそうな恋愛事情が、シェイクスピアならではのウィットに富んだ台詞にのせて展開していく。それぞれ個性的でチャーミングだが、未熟さや欠点も垣間見える若い男女が恋に悩みながら成長し、その姿に観る側が共感を覚えるのも、現代のドラマと通じるかもしれない。

ところで、シェイクスピア劇のジャンルを題名だけである程度、見分ける方法がある。悲劇と歴史劇のタイトルには必ず主人公、または主要な登場人物の名前が入る。たとえば四大悲劇の『ハムレット』『マクベス』『オセロ』『リア王』、歴史劇の人気作『リチャード三世』。しかし、喜劇には具体的な個人の名前が出てこないのだ。これは喜劇では、登場人物たちのキャラクターや抱えている問題の多くが、観客にとって身近で等身大であることが理由の一つではないだろうか。

「初舞台で蛭川さんにボコボコにされたい」ベネディック役：小出恵介



© サトノリユキ

俳優を始めたころから舞台はずっとやってみたくて思っていたんです。小劇場系から大きな劇場の作品まで、もともと好きでよく観ていたし、大学生のときに学生演劇をちょこっとやったこともあって。今回、念願かなって初舞台という感じです。しかも、蛭川さん演出のシェイクスピア作品で主演と、ハードルが高い現場でうれしいです。まわりは舞台のベテランの方ばかりなので、胸をお借りするつもりで楽しんでいきたいですね。最初にお話をいただいたときは、「初舞台で女優、来たか」と思ったんです。男役で、よかったと(笑)。舞台経験をもっと積んだ後なら女性役も楽しめるんじゃないかと思うんですが、今の自分ではまだそこまでは…という感じなので。

蛭川さんには、一度お会いしたとき「任せるよ」って言われました(笑)。どういう意味なんだろう。なんだかプレッシャーです(笑)。「天保十二年のシェイクスピア」や「あわれ彼女は娼婦」、「カリギュラ」等、今まで蛭川さんの舞台を観てきて感じるの、確立された美しい世界があるということ。そんな蛭川さんの世界観の中で自分がどう泳いでいけるか、わくわくしますね。シェイクスピアの独特のセリフをどういう風に口にできるだろうかとか不安もありますが、とにかく稽古場で蛭川さんにたくさん打たれたい。ボコボコにされたい。自分は全然通用しないんだ、そんな感覚をもって、自分をギリギリのところに追い込んで取り組んでいきたいと思っています。

「まさか女性役が来るとは思ってもみなくて」ピアトリス役：高橋一生



© サトノリユキ

今回出演を決めたのは、自分が女性をやるということがまったくの未知の世界だったから、それが大きいんです。まさか女性役が来るとは思ってもみなくて、最初に話をいただいたとき、「自分、できるのか」と思いましたね。ピアトリスって、セリフにも「美しい女」とある女性なので、まずはビジュアル的にそう見えるんだろうかというのがあって(笑)。女性の心理もわからないので、今までの感情ベースの役作りから、型、しぐさから入る役作りへ、根本から変えていかなければという意味でも楽しみがありますね。

シェイクスピア作品は初めてですが、愚かさも汚さ、美しさも含め、人間が生きて描かれているところが好きで、戯曲もいろいろ読んでいたんです。「ハムレット」も好きだし、「ロミオとジュリエット」のマキューシオはいつかやってみたい役ですね。芯となるキャラクターはもちろん、まわりのキャラクターも生き生きと人間らしく描かれているところに魅力を感じます。

蛭川さんの演出は「にこり江」以来十年ぶりです。まだ右も左もわからないでやっていた頃だったんですが、言葉が的確で、だからこそすごく響いてくるなと思ったのを覚えています。その言葉に立ち向かっていけるようなエネルギーがすごく湧いてくるし、方向を導いてくれるという感じで。客席で観ていても、蛭川作品にはエネルギーをものすごく感じるの、自分もその熱気の一部になれたらなと楽しみにしています。

取材・文=藤本真由(舞台評論家)

Cast Profile

小出恵介 (こいで けいすけ)
2005年、映画『バッチギ!』(井筒和幸監督)でデビュー後、若手実力派としてその活躍が注目を集めている。主な出演作として映画『きみにしか聞こえない』(萩島達也監督)『キササギ』(佐藤祐市監督)『恋空』(今井夏木監督)『僕の彼女はサイボーグ』(クァク・ジェヨン監督)、ドラマ『おいしいプロポーズ』(TBS)『のだめカンタービレ』(CX)『佐々木夫妻の仁義なき戦い』(TBS)『ROOKIES』(TBS)等。今作で初舞台にて主演を務める。

高橋一生 (たかはし いっせい)
舞台・映画・ドラマで幅広く活躍。主な出演作に舞台『トランス』(浦上尚史演出)『アイスクリームマン』(岩松了演出)『ファイナルファンタジックスーパーノーフラット』(本谷有希子演出)、映画『半落ち』(佐々木清監督)『ミートボールマン』(山口雄大監督)『デトロイト・メタル・シティ』(李闘士男監督)ドラマ『風林火山』(NHK)『医龍2』(CX)『1ポンドの福音』(NTV)『ゴンゾウ』(ANB)等。蛭川演出作品は98年の『にこり江』以来2作目。

長谷川博己 (はせがわ ひろき)
2001年文学座研究所に入所。TPT『BENT』(ロバート・A・アッカーマン演出)で初舞台を踏み、以降『ゴロギョフ家の人々』(永井愛演出)『赤い月』(鶴山仁演出)『トーチソングトリロジー』(鈴木勝秀演出)等の舞台で活躍。06年退団後、『シェイクスピア・ソナタ』(岩松了演出)等の舞台に出演する他、ドラマ『四つの嘘』(EX)『七瀬ふたたび』(NHK10月期)に出演。蛭川演出作品には『カリギュラ』等に出演しており、今作で4作目。

月川悠貴 (つきかわ ゆうき)
1985年初舞台、蛭川演出作品の娘役になくはない存在で、オールメール・シリーズ全作品に出演している。『お気に召すまま』シリーズ、『間違いの喜劇』ルシアーナ、『恋の骨折り損』マライアなど、その演技はいずれも好評を博す。コンサートやディナーショー等の音楽活動にも意欲的に取り組むなか、『ハムレット』『タイタス・アンドロニコス』のほか、今夏出演した音楽劇『ガラスの仮面』では劇中歌も担当した。

●●●● PLAY ●●●●

彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾 『から騒ぎ』

【日時】10月7日(火)～23日(木) 全19公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】蛭川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【翻訳】松岡和子

【出演】小出恵介 高橋一生 長谷川博己 月川悠貴 吉田鋼太郎 磯川哲朗 ほか

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円/学生席2,000円

メンバーズ:S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円

【バックステージツアー】10月15日(水) 公演終了後(30分程度)

【アフタートーク】10月20日(月) 公演終了後出演者によるトークあり

詳細は財団ホームページにて <http://www.saf.or.jp>

10月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00			休		●	●	●		休		●	●	●				●
13:30							●							●			●
18:00					●								●				●
18:30	●	●	演	●					●			演	●				●

蜷川幸雄

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家

サケ ンラ ドリ ロ ヴィ ッチ

ナイロン100°C主宰 劇作家・演出家

公開対談シリーズ第15回

NINAGAWA 千の目

真夏の昼下がり派手なシャツに金髪で登場したケラさんは、
蜷川幸雄という空間で静かにゆっくり揺れていた。
そして、二人の約束が公表されたのだった。

ケラリーノ・サンドロヴィッチという真面目な虚

蜷川(以降 N) ケラさんはすぐれたミュージシャンであり、劇作家であり、演出家であり、映画監督です。彼は、「埼玉は遠いな」と絶対に言うに決まっていますが、今日ははるばる来ていただきました。

KERA(以降 K) こんにちは。こんなところによく通っていますね。いやあ、遠い(笑)。

N 絶対に言うと思った！でも、なかなかこういう機会でない、ケラさんの実像に触れることもないし、どうせ嘘ばかりだと思いますが(笑)。

この虚実入りまじったところがケラさんで、そもそもケラリーノ・サンドロヴィッチとは何者ですか？

K 僕が日本人だということは、もういいかげん定着しているのではないですか。でも、いまだに地方でふらっと公演の空き時間に地方の書店に行く、ためですね。まだ海外文学のところ、ニール・サイモンの隣とかにあります(笑)。

今日お会いするので一昨日慌てて、蜷川さんが監督をされた「蛇に

ピアス」の試写会に行きました。あれは、あの、CG がすごいですね。

N 何だよ。CG がすごいということは、ばかにしているということ？

K 舌に穴をあけてピアスをするのですが、普通にリアルに舌が二つに割れていたり、穴を開けて広げたりするんです。見ていて痛くなるくらいですよ。いやあ、すごかった、CG が。それにしても、舞台が渋谷のセンター街ですからね。

N 「蜷川さん、世代的なギャップを感じませんか」とよく言われるんだよ。「野田やケラと僕は同じ世代だと思っているよ」と言ったら、相手からは「そんなことないですよ」と(笑)。

K 「蛇にピアス」のプレスリリースに書いてありましたが、普通に考えると、映画会社はもっと原作者と同世代の人に撮らせることを考えると思います。そのほうが共有するものが多いだろうと考えますよ。それを蜷川さんが、本来なら(蜷川)実花が撮るべきかもしれないけれど、俺だって撮ってもいいだろうみたいなことを言いながら撮っているのがとてもかわいいと思いました。

N うるせーよ。

若い演劇人が彩の国に来てくれて、いろいろ話を聞いたら本当にうれしいと思っています(蜷川幸雄)

僕が脚本家という仕事でみつめている世界

N 『道元の冒険』というのをいま上演していますが、台本が全部できたのが稽古の初日の朝でした。古い台本はあって、途中まで直してあった。そこに“てにをは”から、カット、入れ換えと、さらに直しが入りました。その直しがこんなに丁寧なんだったら、間違っ言うわけにはいかないよな、というぐらいしつこいわけです。やっぱりそのくらい、ケラさんも“てにをは”や点丸にこだわりますか。

K 僕は言葉にはもの凄くこだわるほうだと思います。冗談ではなく、台本が上がる直前は死にそうになりますね。“てにをは”でということでもないけれども、ギャグ一つとか、台詞の語順とか一つで一晩中悩んだりすることはあります。種火がともるといって、何かいけると思わないと1行目が書けないのです。というか、書けはするのですが、翌朝破棄したくなってしまうのです。でも端から見るとその灯がともるまでの時間というのは、ただ怠けている時間にしか見えない。何で書き始めない、いつまでも書き始めないから案の定遅くなるのではないと言われてますが、そうではないんだ！というのはいつも作家同士の会話の中だけです(笑)。

N 書くということは本当に大変だと思います。僕の演出なんて第二芸術だから、もとがなければ出来ないからといつも言っている。

僕の方はね、芝居の俳優はにっこり笑って、心の中で泣きながら、劇評では台詞を覚え切れない俳優がいるとか書かれて、くそかと思うのもいいと思うんだ。僕はそういうことを逆手に取ってあまり芸術なんて言わないで、捨て身で嘘をつくのはいいなと思っているよ。そのくらいのちゃめっ気です。

K 芝居の台本を書くという行為は、自由度が非常に高い。映画とは違って、芝居の台本は第5稿まで書き直せなんて命じられることはまずないですから。物理的に不可能だということもありますが、演劇は非常に自由なメディアなわけですね。だからこそ僕は演劇界に20何年もいるんだと思います。自由過ぎて、本当に最初の一つを選ぶのが、これでいいのだろうかと思うのです。途中いくつもいくつも岐路があって、それをチョイスしていくと…。

N 自分がしょっちゅう変わっているんだって、感じるんだ。

K はい。せめぎ合いながら書いてゆく中で、いつまで経っても「まだ間に合うのではないかと」思ってしまう。もっと面白いことを思いつけられるような気がしてしまうのです。そうすると、残り稽古日数8日が、あと7日になっても、もう少しねばった方がよいのではないかというように思ってしまう。

N 僕は書かない勇気というの、あると思うのだけど。

K それが勇気かどうかわかりませんが、1本の作品としてとりあえず体裁を作って出来上がりですと言ってしまうのは簡単とまでは言いませんけど、そんなに大変なことではないと思います。演劇は

残らないメディアのはずだけど、過剰に自分の中には蓄積されていく感があるんです。

僕はよく定期的にこんな夢をみるんです。お客が入らなかったお芝居とか、自分がうまく行かなかったなと思ったお芝居とか、役者がもう一つだと思っていたに違いないお芝居があったとします。その芝居のキャラクターが夢に出てくるのです。彼らが「うまく行かなくて、ごめん」と謝ってきて、それを「いや、君らのせいではないよ」と一生懸命僕がなだめる。「君らは精一杯やったんだ。僕の力が至らなかったのだから」というすごく悲しい夢です。そんな夢を以前はしょっちゅう見ていました。何かあるのです。

N 罪滅ぼしなの？

K 罪滅ぼしですかね(笑)。

僕がもしゴールド・シアターに本を書くとしたら

K ゴールド・シアターの台本の話はしたほうがいいですか。結構具体的になってきているのですが。(拍手)

N うん。僕が書いて下さいとお願いしています。

K 岩松さんが書かれた『船上のピクニック』は素晴らしいですね。本当にあれにはびっくりしました。僕は40何人の出演者が出てくるお芝居なんか書いたことがないですし、ましてや55歳以上の方ばかりですよ。書き手としては制約がすごい。

N それこそ一番上が来年の上演の時には、83歳になっているの。

K 83歳…。まずは飲み友達にならないといけなのではないかって(笑)。55歳以上の方が集まるシチュエーションをいろいろ考えました。同窓会とかはありきたりでつまらないと思ながらも、同窓会に近い、ある時代を共有していた人たちがまた集まるというのはい

いと。例えば、外国に住んでいる恩師が危篤になったりして、外国に集まって来た教え子とその家族みたいな設定はどうですか？例えばオーストラリアとか、ああいうもの凄く明るいところがいいと思います。

N みんな日本から行くわけ？ちゃんと着くかな(笑)。面白いかもね。でも、台詞を覚えるのが大変だよ(笑)。ゴールド・シアターにケラリーノ・サンドロヴィッチさんが、無事書いていただけるとうれしいと思っています。それでは今日は本当にありがとう。



ケラリーノ・サンドロヴィッチ
東京都出身。1982年、ニューウェーブバンド・有頂天を結成。並行して85年に劇団「健康」を旗揚げ、演劇活動を開始する。92年の解散後、翌93年に「ナイロン100°C」を始動。99年には「フロズン・ビーチ」で第43回岸田國士戯曲賞を受賞。以後、受賞多数。近年は映像分野でも活躍。近作にナイロン100°C公演「わが間」、Bunkamura公演「どん底」、映画「罪とか罰とか」が来春公開予定。



©Fernando Marcos

Compañía Nacional de Danza Director Artístico Nacho Duato

Romeo & Juliet

ナチョ・ドウアト スペイン国立ダンスカンパニー『ロミオとジュリエット』

多くの振付家を魅了してやまない、シェイクスピア不朽の悲劇『ロミオとジュリエット』

なかでも近年の名作と評判の高いナチョ・ドウアト版が、8年の時を超えて復活した。

「今も大切な作品」と語るドウアトの一言一言に、作品と登場人物たちへの深い愛情が溢れる。

情熱、才気、躍動感、ドウアトのすべてが凝縮された珠玉の舞台。

ナチョ・ドウアト 独占インタビュー。

取材・文=佐藤友紀 (ジャーナリスト)

生命感のある人間っぽいジュリエットだからこそ、 悲恋の結末が心に浸みるんだよ



「『ロミオとジュリエット』の物語にはずっと前から惹かれていた。これは僕にとって初めての全2幕物だし、創ってから10年経つ今も大切な作品だよ」

スペイン国立ダンスカンパニーの芸術監督を務めるだけでなく、世界中の名だたるダンサーが「彼の振付作品を踊ってみたい」と切望することでも知られるナチョ・ドウアト。傑作と噂の本作は、生命感にあふれた力強いものだった。

「音楽をプロコフィエフ版にしたのは、ストーリーを語るのに一番適していると思ったから。モーリス・ベジャールが使ったベルリオズ版では短すぎるうえにちょっと散文的になってしまうし、チャイコフスキー版だとスイートすぎるだろう(笑)。それに僕にとってプロコフィエフの音楽は、シェイクスピアの原作と共に創作の素になっているんだ」

ナチョの『ロミオとジュリエット』の特徴の一つとして、ジュリエットが可憐だけでなく、自ら運命にとび込んでいくような行動力とその存在感、踊り、演技から感じさせるというのがある。

「そう！ 僕らのジュリエットは、イノセントで弱くて皆で守ってあげなくちゃならないようなヒロインではない。確かに年齢からいっても人生経験は少ないかもしれないが、好奇心に満ちあふれ、何よりも生きること積極的に、家の敵であるロミオとの恋に突き進む勇気もある。でもこういう風にビビッドなジュリエット像は、僕が大好きだったフランコ・ゼフィレリ監督の映画『ロミオとジュリエット』のオリビア・ハッセーも見せてくれている。それだけ生命感のある人間っぽいジュリエットだからこそ、余計に悲恋の結末が心に浸みるんだよ」

「人間っぽい」といえば、ナチョ版『ロミオとジュリエット』は、通常大した踊りのパートを割り当てられていないジュリエットの母親ですら夫キャピュレット卿だけでなく、娘ジュリエットの結婚相手候補パリスとのデュエットを踊るなど、単なる脇役に甘んじていない。

「確かにジュリエットの母親にあそこまで踊らせるヴァージョンは少ないだろうな(笑)。でも考えてみたら、彼女だって母親というイメージの中年女性ではなく、まだまだ若いんだ。ジュリエットに「あなたの年頃にはあなたを産んでいた」と言うくらいだから、せいぜい28、29歳といったところで。だとしたら、彼女だって自分の感情を出すべきだと思ったんだよ。それに、こうしたロミオとジュリエットをめぐる個々の人物を誰と踊らせるかによって、この物語の単純じゃない人間関係も浮かび上がってくるはずだからね」

スペイン、サン・クガットの公演では、ロミオの親友マキューシオが大きな拍手をもらっていたが、現役時代は優秀なダンサーとして知られていたナチョも、あの役、踊りたくなかったのでは？

「いや、僕はあそこまでお調子者じゃないよ(笑)。自分が踊るんだったら、むしろジュリエットのキャピュレット家側のティボルトかな」

その敵対するモンタギューとキャピュレット、各々ちゃんと特徴づけられているのもユニークだ。

「観客にとってもその方が親切だと思ったんだ。特に乱闘シーンなんか、どっちがどっちかわからなくなるだろう(笑)。で、マキューシオのいるモンタギュー側をより庶民風というか農民、商人風にして、ティボルトのキャピュレット側を貴族的にした。2人の性格分け上も納得できるんじゃないかな」

そんな細かい点まで楽しめる舞台、評判にならないわけはない！



©Bernardo Dorai

NACHO DUATO

ナチョ・ドウアト

スペイン・バレンシア生まれ。ランバート・スクール、ムードラ、アルヴァン・エイリー・アメリカン・ダンス・センターで学ぶ。クルベリ・バレエ団を経て、1981年、イリ・キリアンの招きによりネザールランド・ダンス・シアター (NDT) に入団。1983年、処女作『ジャルディ・タンカート』でケルン国際振付ワークショップ第1位。1988年にはNDTの専属振付家に就任。パリ・オペラ座バレエ、ロイヤル・バレエ、ネザールランド・ダンス・シアター、アメリカン・バレエ・シアター等、世界の著名バレエ団に数多く作品を提供している。1990年よりスペイン国立ダンスカンパニー芸術監督。過去2度の来日公演はいずれも大きな話題となった。

●●●● DANCE ●●●●

ナチョ・ドウアト スペイン国立ダンスカンパニー

『ロミオとジュリエット』

【日時】11月22日(土) 開演 18:00、23日(日) 開演 15:00、
24日(月・祝) 開演 15:00

※23日の公演終了後、ナチョ・ドウアトによるポスト・パフォーマンス・トークを行います。
※開演時間に遅れますと客席へのご案内ができません。あらかじめご了承ください。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ロミオとジュリエット』(1998年初演) 【振付】ナチョ・ドウアト

【音楽】セルゲイ・プロコフィエフ ※音楽は録音テープを使用します。

【出演】スペイン国立ダンスカンパニー

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席7,000円/A席5,000円/学生A席3,000円
メンバーズ:S席6,300円/A席4,500円

日本昔ばなしのダンス

本気で遊ぶ大人たちに 子どもも釘付け

日本の昔ばなしをダンスでつづる人気シリーズ第3弾!

誰もが知っているあのお話、あの登場人物が、
奇想天外なからだの動きで現れる。
遊びの達人の大人たちが本気で挑む舞台は、
子どもたちにとってもスリリング!

文=稲田 奈緒美 (舞踊評論家・研究)



イラスト:木村晴美



『ねずみのすもう』(近藤良平 振付) ©Arnold Groeschel



『コシツ』(森下真樹 振付・出演)



『デュタント』(森下真樹 振付・出演)

PROFILE



©HARU

RYOHEI KONDO

近藤良平(こんどう りょうへい)
コンドルズ主宰・振付家。第四回朝日舞台芸術賞山修司賞。
TBS『情熱大陸』出演。『AERA』の表紙にも。氣志團や宮崎
あおい主演『星の王子さま』、NHK教育『からだであそぼ』など
を振付。NHK総合『サラリーマンNEO』で話題の『サラリーマ
ン体操』の振付、出演も担当。横浜国立大学などで非常勤講
師を務める。ペルー、チリ、アルゼンチン育ち。



©427FOTO

MAKI MORISHITA

森下真樹(もりした まき)
転勤族に育ち、3つの小学校に通う。早く友達をゲットするた
めにいろいろな遊びを開発。そのころの遊びがダンス作品に強く
反映する。振付家・ダンサーとして『デュタント』、『森下真樹
ダンスショウII』などの他、韓国、イタリア、ベルギー、フィン
ランドでもソロ公演を行う。2004年『横浜ダンスコレクション
2004』で(財)横浜芸術文化振興財団賞。2005年『東京コ
ンペ#2』優秀賞。

●●●● DANCE ●●●●

『日本昔ばなしのダンス』 3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

近藤良平 / 森下真樹

【日時】10月25日(土) 開演 13:00 / 16:00
26日(日) 開演 13:00 / 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【演目】『はなさかじいさん』【振付】近藤良平
【出演】鎌倉道彦 藤田善宏 山本光二郎 近藤良平

【演目】『うらしまたろう』【振付】森下真樹 【出演】森下真樹 ほか

【チケット(税込)】好評発売中
全席指定 大人(高校生以上):2,000円 子ども(3才以上中学生以下):1,000円

近藤良平 × 『はなさかじいさん』

「日本昔ばなしのダンス」の第一回公演で『ねずみのすもう』を愉快な趣向で披露し、会場を沸かせた近藤良平。今回、彼が選んだのは、誰でも知っている『はなさかじいさん』だ。

「なんの話にするか、決めるのに時間がかかったんだよね。あれこれ考えて、一周ぐるっと回って、結局誰でも知っている話にした。でも、みんなに聞いてみると、知っているようで実は知らない。本によって話が少しずつ違うし、題名も「はなさか」と「はなさき」がある。昔ばなしも変化するのが普通なんだね。コンテンポラリー・ダンスと同じで、時代によって、場所によって、いろんな人がアレンジして書いている」ゆえに今回は、物語を追って表現するだけでなく、近藤風に発想を自由に膨らませた『はなさかじいさん』になるようだ。近藤の発想の豊かさは、既にコンドルズでお馴染み。ダイナミックなダンスシーンの後に、小さな指人形が出てきたり、シュールなアニメやコント、音楽演奏が始まったりと、固定概念に捕らわれて凝り固まりやすい私たちの頭に、

見事に、爽やかに、心地よい風穴を開けてくれる。今回は、ポチが100匹登場するかもしれないし、昔ばなしの定石どおりに勧善懲悪では終わらないかもしれないのだ。

最近近藤は、江戸時代の浮世絵師たちが描いた、人の姿で文字を描いた当て字や騙し絵のおもしろさに驚いたと言う。

「一見くだらないと思うことでも、その発想がいいなあ、と思ったんだよね。昔の人の遊び心、気持ちというか、ゆとり、貝殻のような遊びの文化、そんなことを裏テーマにするかもしれない。それから、子どものワークショップをやっていると思うのは、子どもは頭で思って口に出すことと、からだの反応が違うということ。変な動きをすると、「きもーい」とか言いながら、からだでは喜んで真似をするんだよね。こちらが一生懸命におもしろがれば、子どもも面白がるはず」

遊び心を極めれば、子どもも大人も楽しめる。面白くて洒落っ気があって、奇想天外なダンスになることは間違いない。

森下真樹 × 『うらしまたろう』

近藤の『はなさかじいさん』には、コンドルズの男性ダンサーばかりが出演するのに対して、森下真樹の『うらしまたろう』では女性ダンサーばかりが登場するらしい。こちらも、誰でも知っている昔ばなしだが、近藤と同様、どのように話が発展、転換するのかわからない。

「私は普段から作品を創るときに、どれだけ妄想できるか、にかけているんです。今回は誰でも知っている話だからこそ、ストーリーを追うだけでなく、どれだけ脱線できるか試してみたいですね」

ユニークで、いつも笑いに包まれる森下の振付の基準は、「子どもが真似したくなるようなもの」であるという。それは、様々な劇場や小学校で、子どもたちのワークショップを続けてきた成果でもある。

「子どもには嘘がつけないなあ、と思います。嘘を言うとすぐにバレるし、本音でぶつからないとついてきてくれない。子どもにウケるものというのは、相当なインパクトがあるものだと思うんです。だから、子どもが動きを真似してくれると嬉しいし、家に帰ってお母さんに教えた

りしてくれたら、本当に嬉しいですね」

こんな森下のサービス精神は、転勤族の親について小学校を3回も転校したという経験が土台になっているという。

「早く友達を作るために、いろんな遊びを考えました。その遊びの延長で、今もダンスを作っているのかもしれませんが。7月の新作公演では、ダンサーにそれぞれ呪文を考えてもらって、それを使いました。私が小学生のままなのかもしれないなあ」

とは言え、大人になった森下の遊びは真剣である。

「本音の大人を見せてやる、こんなに面白いんだぞ!って、子どもも大人も楽しめるダンスにしたいですね」

現在決まっているのは、森下が『うらしまたろう』を踊るということだけ。しかし、竜宮城の乙姫様か、はたまた、タイやヒラメに変身するかもしれない。このうらしまたろうは、玉手箱をあけて見なければ、どんなダンスが飛び出すかわからないのである。



9.27
sat 14:00

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.6
アンドレイ・コロベニコフ
ピアノ・リサイタル



10.4
sat 17:00

ベルリン・フィルハーモニー
木管五重奏団



10.12
sun 15:00

新日本フィルハーモニー交響楽団
クリストフ・ゲッショルト (指揮)
児玉麻里 (ピアノ)



10.25
sat 14:00

児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008
第3回 児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ
『《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち』

Classic Season

季節の深まりを珠玉の音楽で辿っていく

彩の国クラシック・シーズン
ラインアップ2008-2009



11.27
thu 12:10

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第6回
東響メンバーによる弦楽四重奏



12.7
sun 15:00

唐澤まゆ子 (ソプラノ) & 荘村清志 (ギター)
デュオ・リサイタル



12.13
sat 14:00

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7
北村朋幹 ピアノ・リサイタル



12.22
mon 12:00

彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート
リコーダー Q
江崎浩司 (リコーダー) 高群輝夫 (チェロ) 長久真実子 (チェンバロ)



2009
1.17
sat 14:00

埼玉会館ニューイヤー・コンサート
ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ
ペーター・グート (指揮 & ヴァイオリン)
鈴木慶江 (ソプラノ) 水口 聡 (テノール)



2009
2.7
sat 14:00

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7
ロマン・デシャルム ピアノ・リサイタル



2009
3.8
sun 14:00

堤 剛 (チェロ) & 小山実稚恵 (ピアノ)
デュオ・リサイタル



2009
3.15
sun 14:00

埼玉会館ファミリー・クラシック
木村美音子 (指揮) 稲村なおこ (歌 & MC)
東京交響楽団の仲間たち

Lineup Classic Season 2008-2009

- 光の庭プロムナード・コンサート
田上麻里 (オルガン) & 西谷尚己 (ヴィオラ・ダ・ガンバ) ⊕
【日時】9月20日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ (P.18)
- ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.6
アンドレイ・コロベニコフ ピアノ・リサイタル
【日時】9月27日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.22)
- ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団
【日時】10月4日 (土) 開演 17:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.18)
- 新日本フィルハーモニー交響楽団
クリストフ・ゲッショルト (指揮) 児玉麻里 (ピアノ)
【日時】10月12日 (日) 開演 15:00 【会場】埼玉会館 大ホール (P.19)
- 児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008 第3回
児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ 『《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち』
【日時】10月25日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.17)
- 光の庭プロムナード・コンサート
近藤 岳 (オルガン) & 勝山雅世 (オルガン) ⊕
【日時】11月22日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ (P.18)
- 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第6回
東響メンバーによる弦楽四重奏
【日時】11月27日 (木) 開演 12:10 【会場】埼玉会館 大ホール (P.22)
- 唐澤まゆ子 (ソプラノ) & 荘村清志 (ギター) デュオ・リサイタル
【日時】12月7日 (日) 開演 15:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.18)
- ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7
北村朋幹 ピアノ・リサイタル
【日時】12月13日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.17)
- 光の庭プロムナード・コンサート 早川幸子 (オルガン) & 市川鉄也 (オーボエ) ⊕
【日時】12月20日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ (P.18)
- 彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート
リコーダー Q (江崎浩司 (リコーダー) 高群輝夫 (チェロ) 長久真実子 (チェンバロ))
【日時】12月22日 (月) 開演 12:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.22)
- 埼玉会館ニューイヤー・コンサート
ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ
ペーター・グート (指揮 & ヴァイオリン) 鈴木慶江 (ソプラノ) 水口 聡 (テノール)
【日時】2009年1月17日 (土) 開演 14:00 【会場】埼玉会館 大ホール (P.19)
- 光の庭プロムナード・コンサート
佐藤礼子 (オルガン) & 萩原 潤 (バリトン) ⊕
【日時】2009年1月24日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ (P.18)
- ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.8
ロマン・デシャルム ピアノ・リサイタル
【日時】2009年2月7日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.17)
- 光の庭プロムナード・コンサート 浅尾直子 (オルガン) & 本間千也 (トランペット) ⊕
【日時】2009年2月21日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ (P.18)
- 堤 剛 (チェロ) & 小山実稚恵 (ピアノ) デュオ・リサイタル
【日時】2009年3月8日 (日) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール (P.17)
- 埼玉会館ファミリー・クラシック
木村美音子 (指揮) 稲村なおこ (歌 & MC) 東京交響楽団の仲間たち ⊕
【日時】2009年3月15日 (日) 開演 14:00 【会場】埼玉会館 大ホール (P.19)
- 光の庭プロムナード・コンサート
浅井美紀 (オルガン) & 能登谷安紀子 (ヴァイオリン) ⊕
【日時】2009年3月21日 (土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ (P.18)

※11月16日 (日) に予定していた「マレイ・ベライア ピアノ・リサイタル」は、日本ツアー中止に伴い、彩の国さいたま芸術劇場公演も中止となりましたので、何卒ご了承ください。
⊕3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。



Sainokuni Concert Hall

“あの空間で” と思える音楽の至極のひとときを ピアノ、室内楽で輝く彩の国の音楽ホール

ピアノニッシモの細部まで聴き取れる604席のシューボックス型ホールでは、
いつも演奏者の表現との“贅沢な出会い”を実感できる。
このシーズンは充実のピアノ公演に加え、意欲的な室内楽にも期待が高まる。

文=片桐卓也(音楽ライター)

“ピアノリズムの醍醐味”を堪能できる、 若手から円熟のソリストたちの公演

クラシック音楽を聴く楽しみは、結局のところ「コミュニケーション」にあるのだと思う。作曲家が書いた作品を演奏家は演奏する訳だが、それは単純作業ではなく、作曲家の意図を読み取り、秘められた思いにたどり着いて、演奏家はさらにそれを聴衆に語りかける。幾重にも積み重ねられる会話が、そこにはある。音楽を聴く、ということは、聴衆もその会話に参加することなのだ。

ならば、出来るだけ、その会話を聴き取りやすい条件が必要になる。それが彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールのような、音響的に優れたホールの存在意義なのだ。音楽の会話を助けるホールの役目はとても重要で、だからこそ、会場を選んで音楽を聴きに行くという、ちょっと通な選択がクラシック音楽では行われる。

さて、2008年秋から2009年にかけてのクラシックのイベントを並べてみると、このシーズンも豊かな音楽的会話を体験できそうな、素敵なコンサート企画が並んでいる。ピアノ・ソロだけでなく、デュオや室内楽が充実しているのも特徴だ。

パリ在住でいまや中堅として音楽界に欠かせない存在となったピアニストの児玉桃はメシアン作品を姉・麻里と共演する。堤剛と小山実稚恵、それに声楽の唐澤まゆ子とギターの荻村清志という興味深いデュオもある。ベルリン・フィルの木管五重奏団は世界一と言われるその実力を披露してくれるだろう。もちろん「ピアノ・エトワール・シリーズ」も期待の若手が登場する。いずれのコンサートも、作曲家との会話を通して、音楽の魅力に触れる、素敵な体験の場となる。



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.5
コルネリア・ヘルマン
ピアノ・リサイタル
【日時】7月5日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.6
アンドレイ・コロベイニコフ
ピアノ・リサイタル
【日時】9月27日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

2008年秋の話題は児玉桃による「メシアン・プロジェクト」。彩の国では、姉・麻里とのデュオでメシアンの大作《アーメンの幻影》が演奏される。もともと姉妹としてデュオ活動も長く展開してきた二人なので、その息のあった演奏は通常のデュオ以上の濃密なものとなっている。メシアンの他に、メシアンの愛したモーツァルトが演奏されるのも嬉しい。

「ピアノ・エトワール・シリーズ」に登場するのは、日本期待の若手・北村朋幹とフランス出身のロマン・デシャルム。北村は10代から活躍し、「ピアニスト100」で最年少出演者となったことでもお馴染み。着実に成長を続ける彼の姿をバツハ、ベートーヴェン、シューマンといった作品で確認したい。デシャルムは1980年生まれでダブリン国際コンクールの覇者。フランスの作品もさることながら、ブラームスなどドイツ物でも味わい深い演奏を聴かせる若手だ。

小山実稚恵はこの音楽ホールの常連とも言えるピアニストだが、今シーズンはチェロ界の大御所・堤剛とオール・ブラームスに挑む。ヴァイオリン・ソナタ第1番「雨の歌」のチェロ編曲版を取り上げるので、計3曲のソナタが演奏されるという豪華なコンサートだ。風格のある演奏を期待したい。

Mari Kodama & Momo Kodama

メシアン生誕100年記念特別企画 児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008
〈第3回〉児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ
【《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち】

オリヴィエ・メシアンの作品との対話(児玉 桃・談)



児玉 桃 ピアノ・リサイタル
～メシアン生誕100年を記念して～
2008年3月1日 音楽ホール

メシアンの作品には10代の初めから接してきましたが、いわゆる現代音楽的な難しさは感じることがなく、作品テーマの神秘性、和声の美しさ、リズムの面白さなどに魅了されてきました。メシアン夫人であるイヴ・ロリオ先生ともお付き合いがあり、メシアンの未発表の作品の演奏を依頼されて、彩の国でも演奏させて頂きました。10月の演奏会は姉(児玉麻里)とのデュオですが、姉とは子供の時からお互いの演奏を聴いてきたし、デュオの演奏会も重ねて来ましたので、演奏をしている時に、急にインスピレーションが湧いても、お互いにやることを瞬時に理解できる、そんな関係です。メシアンの《アーメンの幻影》は1943年の作曲でメシアン自身とロリオ夫人が演奏するために書かれた大作です。また、メシアンが初来日した時に夫人と共に演奏したという思い出の曲でもあります。メシアンの信仰心を表している作品ですが、神秘性とダイナミズム、色彩的な和声の美しさなど、メシアンの特徴がよく表現されている作品です。同時にモーツァルトとラヴェルというメシアンの愛した作曲家のデュオ曲も取り上げることで、多彩なプログラムを楽しんでいただけたと思います。

© Vincent Garnier



児玉 桃 こだま もも(ピアノ)
1991年、最年少でミュンヘン国際コンクール最高位。ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィル、小澤征爾指揮ボストン響など、世界のトップ・オーケストラと共演するほか、ソロ、室内楽においても世界の主要国際音楽祭などで活躍。今年にはルツェルン音楽祭や水戸室内管弦楽団とのヨーロッパ公演にも抜擢された。パリ在住。



児玉 麻里 こだま まり(ピアノ)
パリ国立高等音楽院卒業、ブゾー二他、国際コンクールで上位入賞。ロンドン・フィル、ベルリン・フィルをはじめ、欧米各国でオーケストラとの共演、リサイタル等、精力的な演奏活動を展開。1995年にはカーネギーホールでニューヨーク・デビュー。「ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会」は高い評価を得た。

●●●● MUSIC ●●●●

メシアン生誕100年記念特別企画 児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008
〈第3回〉児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ 【《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち】
【日時】10月25日(土) 開演 14:00 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【出演】児玉麻里 児玉 桃(ピアノ・デュオ)
【曲目】ラヴェル:マ・メール・ロワ モーツァルト:2台のピアノのためのソナタ 二長調 KV448 (375a)
メシアン:アーメンの幻影
【チケット(税込)】好評発売中
一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,000円 メンバース:S席3,600円/A席2,700円

ピアノ・エトワール・シリーズ

Vol.7 北村朋幹 Tomoki Kitamura



きたむら ともき(ピアノ)
1991年生まれ。2005年に東京音楽コンクールにて優勝及び全部門共通の審査員大賞を受賞して注目を集める。06年、彩の国さいたま芸術劇場の「ピアニスト100」シリーズに出演。2部構成での本格的なリサイタルデビューを飾る。同年、浜松国際ピアノコンクールで第3位入賞。ラ・フォル・ジュルネなど音楽祭への出演、日本の主要オーケストラとの共演など、活躍の場を広げている。現在、江口文子、大西真由子氏に師事。

Vol.8 ロマン・デシャルム Romain Deschardes



Romain Deschardes(ピアノ)
1980年フランス・ナンシー生まれ。パリ国立高等音楽院でピアノ、室内楽、ピアノ伴奏法、声楽伴奏法のすべてのクラスをブルミエ・プリ(1等賞)を得て卒業。2006年ダブリン国際ピアノコンクール優勝、07年ヘルムシュテール・コンクール優勝。フランス国内外でリサイタルを行うほか、音楽祭にも招かれている。NHK「スーパーピアノレッスン」に出演。初のCD「ブラームス作品集」をクラヴィディオ・レコードから発売。

●●●● MUSIC ●●●●

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7 北村朋幹
【日時】12月13日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】バツハ(北村朋幹編曲):襷れみたまえ、わが神よ(マタイ受難曲) BWV244より 第39曲) ショパン:バラード第1番 ト短調 作品23
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第13番 変ホ長調 作品27-1 ほか
【チケット(税込)】好評発売中
一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバース:S席3,150円

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.8 ロマン・デシャルム

【日時】2009年2月7日(土) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ブラームス:6つの小品 作品118 フォーレ:舟歌第1番 イ短調 作品26
ラヴェル:ラ・ヴァルス ほか
【チケット(税込)】一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円
メンバース:S席3,150円
【発売日】一般:9月27日(土) メンバース:9月20日(土)

Tsuyoshi Tsutsumi & Michie Kodama



堤 剛(チェロ)&小山実稚恵(ピアノ) デュオ・リサイタル ～オール・ブラームス・プログラム～

堤 剛 つつみつよし(チェロ)
桐朋学園高等学校音楽科卒業後、米国インディアナ大学に留学。1963年、カザルス国際コンクール第1位。第2回島井音楽賞(現サントリー音楽賞)、レコードアカデミー賞並びに芸術祭優秀賞、日本芸術院賞など多数受賞。現在、群馬国際音楽祭音楽監督、桐朋学園大学学長、サントリーホール館長を務める。



小山実稚恵 こやま みちえ(ピアノ)
1982年チャイコフスキー第3位、85年ショパン第4位と日本人として初めて2大国際コンクールに入賞。2006年からは年2回ずつ12年間・24回リサイタルシリーズに取り組み、大きな注目を集めている。ソニーよりCDを多数リリース。05年度文化庁芸術祭音楽部門の大賞、05年第7回ホテルオークラ音楽賞受賞。

●●●● MUSIC ●●●●

堤 剛(チェロ) & 小山実稚恵(ピアノ) デュオ・リサイタル
～オール・ブラームス・プログラム～
【日時】2009年3月8日(日) 開演 14:00
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】ブラームス:チェロ・ソナタ第1番 ホ短調 作品38
ブラームス(クレンゲル編曲):チェロ・ソナタ 二長調
(原曲:ヴァイオリン・ソナタ第1番 ト長調 作品78「雨の歌」)
ブラームス:チェロ・ソナタ第2番 へ長調 作品99
【チケット(税込)】一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,500円
メンバース:S席3,600円/A席2,700円
【発売日】一般:10月25日(土) メンバース:10月18日(土)

世界の最高峰ベルリン・フィルの木管五重奏、そして個性に輝くソリストのデュオ公演

Berlin Philharmonic Wind Quintet Mayuko Karasawa & Kiyoshi Shomura

室内楽で注目されるのはベルリン・フィル木管五重奏団の演奏会だ。フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットという楽器編成は、様々な音色の融合を楽しめるもので、欧米では室内楽の中でも最も愛されている。この五重奏団は1988年の結成以来、ずっとメンバーの変更がないという点でもユニークな存在だ。つまりカラヤン〜アバド〜ラトルという時代を全部知っているということである。

最近の日本ではブラス・バンドのブームもあって、若い世代に管楽器愛好家が増えてきているので、ぜひ世界最高のオーケストラの木管セクションの演奏を、生で体験して欲しい。特にタファネルは19世紀フランスの作曲家で、その後の管楽器発展の基礎を築いた人。彼の作品を生で聴くチャンスは少ないので、注目して欲しい。

次いで、声楽とギターというあまり例を見ない共演。パリ在住で、主にバロック系のオペラなどで活躍するソプラノの唐澤まゆ子は、マリー・アントワネットの歌曲の研究・演奏でも知られている。ギター界のベテラン・荘村清志とはNHKの番組で共演しているが、今回のデュオではそのアントワネット作品を初め、ファリャ、グラナドスなどのスペインの作品、そして日本歌曲も共演する。歌曲の演奏会は、通常はピアノ伴奏で行われることがほとんどなので、音のバランスという点で難しいことも多いのだが、ギターという楽器は音量がそれほど大きくないので、声と伴奏の会話もより密接な感じになるだろう。シューベルトの歌曲がギター伴奏で歌われることも多いが、ここではさらに意外な発見が来るぞうだ。

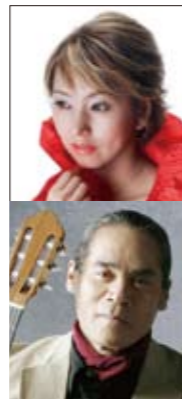
ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団



ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の初の本管五重奏団として、1988年の結成から20年間メンバーを固定して活動。音楽的にも精神的にも高いレベルに維持された演奏は、世界的に高い評価を受けている。世界各地へのツアーを数多く行うほか、著名な音楽祭に定期的に出演。多彩な響きと繊やかな表情を持ち合わせ、緊密さと自在な伸びやかさで多くの聴衆を魅了している。今回はこのメンバーでの最後とも言われる9度目の来日。

●●●● MUSIC ●●●●

ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団
【日時】 10月4日(土) 開演 17:00
【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【出演】 ミヒャエル・ハーゼル(フルート) アンドレアス・ヴィットマン(オーボエ) ヴァルター・ザイファルト(クラリネット) ファーガス・マックウィリアム(ホルン) ヘニング・トローク(ファゴット)
【曲目】 モーツァルト(ハーゼル編曲):自動オルガンのための幻想曲 へ短調 KV608 ベートーヴェン(ハーゼル編曲):六重奏曲 変ホ長調 作品71 タファネル:木管五重奏曲 ト短調 ほか
【チケット(税込)】 好評発売中
一般:4,500円/学生1,500円 メンバース:4,050円



唐澤まゆ子(ソプラノ) & 荘村清志(ギター) デュオ・リサイタル

唐澤まゆ子 からさわまゆこ (ソプラノ)
パリ国立高等音楽院声楽科を経てパリ音楽院バロック科を最優秀で卒業。CDデビューを機に日本での活動を開始。一方欧州ではバロック音楽の拠点ボウツィー劇場に出演。2008年4月、6月には同劇場で上演されたオペラに抜擢され、11月はアン・デア・ウィーン劇場ほかに出演する。レパートリーは幅広く、表情豊かな澄んだ声に定評がある。

荘村 清志 しょうむら きよし (ギター)
スタンダードな名曲から現代音楽まで幅広いレパートリーと高い人気を誇る日本ギター界の第一人者。1963年に巨匠イエベスに認められ、氏に師事。69年の日本デビュー・リサイタルで、高い評価を得る。以後リサイタル公演、日本の主要オーケストラへの客演は数多く、ギターの魅力をさまざまな形で人々に伝えている。

●●●● MUSIC ●●●●

唐澤まゆ子(ソプラノ) & 荘村清志(ギター) デュオ・リサイタル
【日時】 12月7日(日) 開演 15:00
【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
【曲目】 マリー・アントワネット:それは私の恋人 ファリャ:《7つのスペイン民謡》より タレガ:アルハンブラの思い出(ギター・ソロ) ほか
【チケット(税込)】 好評発売中
一般:3,000円/学生1,500円 メンバース:2,700円



新日本フィルハーモニー交響楽団 © K.Miura

New Japan Philharmonic

埼玉会館でのオーケストラ演奏会は井上&N響が好評のうちに終わったばかり。今度は新日本フィルがどんな演奏を繰り広げてくれるのか。指揮者は、音楽監督であるアルミンクが推薦する、1976年生まれゲッショルト。30代のドイツの若手だが、いまこの世代は優秀な若手が揃っていることで注目されているのだ。ピアノ・ソロに児玉麻里が登場してモーツァルトの最後のピアノ協奏曲を演奏する他、やはりチャイコフスキーの最後の交響曲「悲愴」が演奏される。フレッシュな組み合わせが、2つの最後の作品に新たな光をあてるだろう。

新日本フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)
1972年、小澤征爾のもと楽団員による自主運営のオーケストラとして創立。以来優れた企画と充実した演奏で好評を得ている。97年より「すみだトリフォニーホール」を活動の本拠地とし、日本初の本格的フランチャイズを導入。2003年には音楽監督に71年生まれクリスティアン・アルミンクが就任して注目を集めた。

クリストフ・ゲッショルト Christoph Gedschold (指揮)
1976年ドイツ、マクデブルク生まれ。ドレスデン州立歌劇場、ルツェルン歌劇場他にて、指揮者、コレペティトゥーアや、アルミンク等のアシスタントを務め、2003～05年のルツェルン音楽祭では、アバド、ヤンソンス、ブルーゼのアシスタントを務めた。07年よりニュルンベルク州立歌劇場の第2指揮者を務める。

児玉 麻里(ピアノ) p.17を参照

●●●● MUSIC ●●●●

新日本フィルハーモニー交響楽団
クリストフ・ゲッショルト(指揮) 児玉麻里(ピアノ)
【日時】 10月12日(日) 開演 15:00 【会場】 埼玉会館 大ホール
【曲目】 モーツァルト:歌劇《魔笛》より 序曲
モーツァルト:ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 KV595
チャイコフスキー:交響曲第6番 短調 作品74「悲愴」
【チケット(税込)】 好評発売中
一般:S 席6,000円/A 席5,000円/B 席4,000円/学生B 席2,000円
メンバース:S 席5,400円/A 席4,500円/B 席3,600円

ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ

ペーター・グート(指揮&ヴァイオリン) 鈴木慶江(ソプラノ) 水口 聡(テノール)
【日時】 2009年1月17日(土) 開演 14:00 【会場】 埼玉会館 大ホール
【曲目】 レハール:メリー・ウィドウ・ワルツ J.シュトラウスII:美しく青きドナウ ほか
【チケット(税込)】 好評発売中
一般:S 席6,000円/A 席5,000円/B 席4,000円/学生B 席2,000円
メンバース:S 席5,400円/A 席4,500円/B 席3,600円

Strauss Festival Orchestra Vienna



© EMI Music Japan © K.Miura

本場ウィーンの薫り漂う、贅沢な聴き初めを

毎年お正月の恒例のイベントとなったのがニューイヤー・コンサート。2009年には「ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ」が登場する。指揮者のペーター・グートはヴァイオリンを片手に演奏するという、シュトラウス・ファミリーの伝統的なスタイルを現在に再現するユニークな指揮者。その指揮はヨーロッパで最もシュトラウスの演奏として評価されている。

今回はそこにソプラノの鈴木慶江とテノールの水口聡が華を添える。鈴木はすでに数多くのアルバムをリリースするなど、人気歌手として活躍中だが、ヨーロッパでの経験も豊富。水口もまたウィーン国立音楽大学を邦人として初の、全員一致の首席で卒業した逸材。ウィーンでのオペラ経験も持つので、ウィーンの味わいを知る貴重な歌手だ。演奏作品は、もちろんシュトラウス・ファミリーが中心で、お正月らしい華やかさに包まれた、楽しいコンサートになるだろう。

ペーター・グート&ウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラ
J.シュトラウスの伝統に則ってヴァイオリンを手に指揮するスタイルで国際的に知られる「ウィーンが生んだ希代の音楽家」ペーター・グート。彼が1978年に設立したウィーン・シュトラウス・フェスティヴァル・オーケストラは、99年のシュトラウス年にウィーン市から正式に同市を代表するオーケストラとして選ばれている。

鈴木 慶江 すずきのりえ (ソプラノ)
東京藝術大学卒。同大学院オペラ科修了。第29回イタリア声楽コンクール第1位ミラノ大賞受賞により1999年からイタリアのG.ニコリーニ国立音楽院に留学。現在国内外で活躍中。リサイタルやオペラ出演の他、小学校を訪ね教育プログラム活動を行う。公式HP: http://www.noriesoprano.com/

水口 聡 みずぐち さとし (テノール)
ウィーン国立音楽大学を邦人初、全員一致の首席で卒業。ミラノ国際コンクール第1位(1988年)を始め、多数のコンクールで受賞。欧州各地の歌劇場に出演し、数々の主役で成功を収め、「圧倒的な声の威力と緊張感を高揚させる演技を兼ねた素晴らしい音楽性のある雄大なテノール」と評される。在ウィーン。

光の庭プロムナード・コンサート(無料)

光と音色につつまれる幸せなひととき

こちらの公演には年齢制限はありません。



14:00開演 会場=彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 入場無料 ©加藤英弘

土曜日の午後、穏やかな光が差し込む彩の国さいたま芸術劇場内「情報プラザ」で開催している無料コンサート。劇場所有のポジティブ・オルガン(移動可能なパイプオルガン)を中心としたアンサンブルでお届けしています。11月は、あまり聴く機会のないポジティブ・オルガン2台の共演を、注目の若手オルガニスト、近藤岳と勝山雅世の演奏で。その他にも、ヴァラエティーに富んだラインアップをお楽しみください。

Lineup

- 9月20日(土) 秋はバロック~いろいろな形式で
田上麻里(オルガン) & 西谷尚己(ヴァイオリン・ダ・ガンバ)
【曲目】 ケルル:かっこうのテーマによるカプリッチョ ほか
- 11月22日(土) 重ね合う響き。響き合うふたり ー2台のポジティブ・オルガンな午後ー
近藤 岳(オルガン) & 勝山雅世(オルガン)
【曲目】 近藤 岳:3つのストラクチャー ー2台のポジティブ・オルガンのためのー
- 12月20日(土) 早川幸子(オルガン) & 市川鉄也(オーボエ)
【曲目】 テレマン:トリオン・ソナタ 変ホ長調 ほか
- 2009年1月24日(土) 佐藤礼子(オルガン) & 萩原 潤(バリトン)
【曲目】 ブクステフーデ:暁の星のいと美しきかな ほか
- 2009年2月21日(土) 浅尾直子(オルガン) & 本間千也(トランペット)
【曲目】 スウェーリンク:ポーランド風舞曲 ほか
- 2009年3月21日(土) 浅井美紀(オルガン) & 能登谷安紀子(ヴァイオリン)
【曲目】 パッハ:おお主なる神、われを憐れみたまえ BWV721 ほか

埼玉会館ファミリー・クラシック

くまのパディントンと一緒に、コンサートをしよう!



今回の埼玉会館ファミリー・クラシック、前半は「パディントン ベア」のお話です。ロンドンの駅にひょっこりと現れたくま。パディントンと名づけられ、ある一家と一緒に暮らすこととなり…。好奇心旺盛なパディントンが初めてのコンサートに出かける珍道中を、お話と音楽でお届けします。後半はアンダーソンの楽しい作品の数々。「歌のお姉さん」稲村なおさんと一緒に歌うコーナーもお楽しみに。是非ご家族皆様さんでお出かけください!

埼玉会館ファミリー・クラシック
パディントン ベア™ といっしょにコンサートに行こう!
木村美音子(指揮) 稲村なおこ(歌&MC)
東京交響楽団の仲間たち
【日時】 2009年3月15日(日) 開演 14:00
【会場】 埼玉会館 大ホール
【曲目】 チャペル:くまのパディントンのはじめてのコンサート アンダーソン:タイプライター、ワルツィング・キャット(みんなで歌いましょう!) 久石 譲:さんぽ ほか
【チケット(税込)】 大人3,000円 小ども(3歳~中学生)1,500円 ※3歳未満のお子様のお入場はご遠慮ください。
【発売日】 一般:11月23日(日) メンバース:11月22日(土)

発売中公演情報 (9.20 ～)

👤 3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

PLAY

彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾 『から騒ぎ』
詳細は P.4 ～ 5にて

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～立川志らく 独演会

日時＝11月8日(土) 開演16:00 会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演＝立川志らく 立川志らく
料金＝一般:3,000円 メンバーズ:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円

源氏語り五十四帖

日時＝第46回「早蕨(さわらび)」12月7日(日) 第47回「宿木(やどりぎ)1」2009年1月11日(日)
第48回「宿木(やどりぎ)2」2009年3月15日(日) 各回開演14:00
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演＝幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス女学院大学教授)
料金＝全席指定 1回券:2,500円 第46～48回連続券:6,600円

DANCE

勅使川原三郎『Here to Here』

日時＝9月20日(土) 開演16:00 21日(日) 開演15:00
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演目＝『Here to Here』(1995年初演) 振付・美術・照明・衣裳＝勅使川原三郎
出演＝勅使川原三郎 宮田佳 佐東利穂子
料金＝一般:S席5,500円/見切れA席2,500円 メンバーズ:S席4,950円
※見切れA席からは、舞台の一部をご覧いただけません。あらかじめご了承ください。
※本公演では、学生席の設定はございません。

『日本昔ばなしのダンス』近藤良平/森下真樹

詳細は P.12 ～ 13にて

ナチョ・ドゥアト スペイン国立ダンスカンパニー 『ロミオとジュリエット』

詳細は P.10 ～ 11にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会 オペラ映画『リゴレット』

日時＝9月26日(金) 10:00 / 13:00 / 16:00 / 19:00
会場＝埼玉会館 小ホール 作曲＝ジュゼッペ・ヴェルディ 監督＝ジャン＝ピエール・ポネル
出演＝ルチアーノ・バヴァロッチ(テノール) イングヴァール・ヴィクセル(バリトン)
エディタ・グルベローヴァ(ソプラノ) ほか
(1982年/イタリア/117分) イタリア語版(日本語字幕あり)
料金＝一般:前売2,300円/当日2,500円 メンバーズ:2,000円

彩の国シネマスタジオ『パーク アンド ラブホテル』

日時＝10月10日(金) 12:45 / 16:00 / 19:00 11日(土) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
12日(日) 10:00 / 12:45 / 16:00
※10/11(土) 12:45上映終了後、熊坂 出監督によるアフタートークあり
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
監督＝熊坂 出 出演＝リリー 梶原ひかり ちはる 神楽 幸 ほか (2007年/日本/111分)
料金＝一般:前売1,000円/当日1,200円 小中高生:前売800円/当日1,000円

SPECIAL PICK UP

ランチタイムに気軽にクラシックを

お昼のひとつき、1,000円で楽しんでいただくコンサート。
11月の埼玉会館では、優雅な弦楽四重奏を。東京交響楽団より、コンサートマスターの大谷康子を始めとした豪華な面々が集結。軽妙なトークと絶妙な演奏で至福の時をお約束します。
12月の彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールでは、笛のマルチエンターテイナー江崎浩司のグループ、リコーダーQが登場。ユーモアたっぷりのお話を交えて、楽しいステージを繰り広げます。



リコーダー Q ©K.Miura

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第6回
東響メンバーによる弦楽四重奏
【日時】11月27日(木) 開演 12:10(終演予定12:50) 【会場】埼玉会館 大ホール
【出演】大谷康子(ヴァイオリン) 田尻 順(ヴァイオリン) 武生直子(ヴィオラ) 西谷牧人(チェロ)
【曲目】モーツァルト:《ディヴェルティメント 二長調》KV136より 第1楽章
クライスラー:愛の喜び ほか
【チケット(税込)】好評発売中 全席指定1,000円

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.6
アンドレイ・コロベニコフ

日時＝9月27日(土) 開演14:00
会場＝彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目＝ムソルグスキー:組曲《展覧会の絵》
シューベルト:ピアノ・ソナタ第21番 変ロ長調 D960
料金＝一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円
メンバーズ:S席3,150円

ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団

詳細は P.18にて

新日本フィルハーモニー交響楽団

詳細は P.19にて

メシアン生誕100年記念特別企画 児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008
(第3回) 児玉麻里&桃 ピアノ・デュオピアノ・リサイタル
『《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち』

詳細は P.17にて

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第6回 東響メンバーによる弦楽四重奏

※詳細は下枠にて

唐澤まゆ子&荏村清志 デュオ・リサイタル

詳細は P.18にて

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7

北村朋幹

詳細は P.17にて

彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート

リコーダー Q

詳細は下枠にて

埼玉会館ニューイヤー・コンサート

ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ

詳細は P.19にて

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp>にて

information インフォメーション

音楽ワークショップで、親子わくわく体験
～魔法の笛たちのひ・み・つ～

めくるめく笛の世界へご案内する音楽ワークショップ。小学生とご家族が対象です。出演は、今大活躍中のリコーダー奏者江崎浩司とチェンバロ奏者長久真実子。リコーダーのみならず、いろいろな「笛」が登場します。あまりお目にかかることのないチェンバロも間近に。他にも盛りだくさんな、聞いてビックリ!見てビックリ!の1時間。豆知識いっぱい面白いお話や、あっと驚く演出もお見逃しなく。是非ご家族でご参加ください!

日時:11月8日(土)
開演14:00(開場13:30/終演予定15:00頃)
会場:彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
出演:江崎浩司(リコーダー、バロック・オーボエ ほか)
長久真実子(チェンバロ、ピアノ)



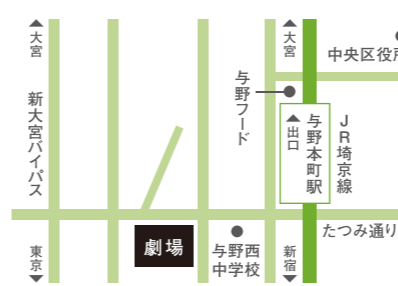
江崎浩司 ©K.Miura

対象:劇場周辺にお住まいの小学生及びその保護者の方
料金:無料 ※要事前申込み
往復はがきに①住所 ②氏名 ③電話番号 ④FAX番号
⑤参加人数 ⑥参加者名及び年齢・学年 を書いて
下記までお送り下さい。9月30日(火) 消印有効。

応募先:〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
彩の国さいたま芸術劇場事業部音楽担当
問合せ先:tel.048-858-5506

ACCESS MAP アクセスマップ

彩の国さいたま芸術劇場



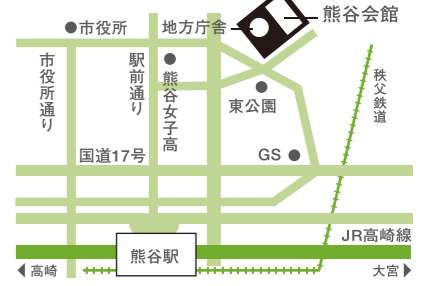
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
電車でのアクセス JR 埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
バスでのアクセス JR 北浦和駅から西武バス大久保行き
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
電車でのアクセス JR 京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536
電車でのアクセス JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

「簡単」・「早い」インターネットチケット購入

- Point 1 時間を気にせずいつでもアクセス(24時間受付)
- Point 2 メルマガで公演情報をいち早くキャッチ
- Point 3 気になる公演の空席状況をチェック
- Point 4 WEB 先行販売で良席確保(一部公演のみ)
- Point 5 キャッシュレスでらくらく購入

- Point 6 購入チケットは自宅へお届け
- Point 7 ホームページから簡単 WEB 登録(無料)



※メンバーズの方もWEB会員登録が必要です。

<http://www.saf.or.jp> (PCのみ)

■サポーター会員

(財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)与野フードセンター／(株)亀屋／武州ガス(株)／(株)エフテック／(株)松本商会／(有)香山壽夫建築研究所／埼玉新聞社／(株)テレビ埼玉ミュージック／金井大道具(株)埼玉りそな銀行／(株)パンフィックアートセンター／アサヒ印刷(株)／FM NACK5／東京電力(株)埼玉支店／東京ガス(株)埼玉支店／埼玉県信用農業協同組合連合会
カヤバ システム マシナリー(株)／(株)タムロン／(株)オメダム／(株)十万石ふくさや／森平舞台機構(株)／日本データコム(株)／(株)ビルメン／東芝ライテック(株)埼玉トヨタ自動車(株)／(有)齋賀設計工務／クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)／ソシエテジェネラルアセットマネジメント(株)／ゲレツ・ジャパン・スズゼン(株)／(株)武蔵野銀行／浦和ロイヤルパインズホテル／(株)アルピーノ／国際照明(株)／(株)松永建設／(株)サイサン 会長 川本宜彦／三国コカ・コーラボトリング(株)あいおい損害保険(株)埼玉営業部／(株)ショーモン／埼玉スバル自動車(株)／(株)木下フレンド／(株)東玉／桶本興業(株)／(株)佐伯紙工所／(株)太陽商工／(株)しまむらアイジャパン(株)／(有)六辻ゴルフセンター／(株)オリエント／不動産開発(株)／ビストロ やま／ホッカイエムアイシー(株)／埼玉縣信用金庫／(有)武蔵興産／(株)栗原運輸(株)エコ計画／彩の国SPグループ／(有)プラネット／トキタ種苗(株)／関東自動車(株)／日本ピストンリング(株)／(株)クマクラ／(株)デサン／亀井産業(株)／(株)グリーン企画社／(有)中島運輸／(株)国際ビジネス研究所／セントラル自動車技研(株)／(株)アズマン／太平洋セメント(株)／(株)ピー・アンド・イー・ディレクションズ朝日新聞 伸光堂さいたま販売(株)／丸美屋食品工業(株)／マツヤハウジング(株)／日立キャピタル(株)／ボラスグループ／ひがし歯科／埼玉建興(株)／(株)日産サティオ埼玉埼玉トヨペット(株)／(株)あいおい保険総合サービス／公認会計士 宮原敏夫事務所／(株)価値総合研究所／(株)埼玉交通／(株)アライヘルメット／西武文理大学(株)東和銀行／医療法人 顕正会 蓮田病院／(株)協同商事コエドブルワリー／(株)ウイズネット／サイデン化学(株)／アイル・コーポレーション(株)／三光ソフラン(株)五光印刷(株)／旭ビル管理(株)／ヤマハサウンドテック(株)／(株)エヌテックサービス／(株)クリーン工房 H20.8.15現在／一部未掲載

【問い合わせ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

Art Window

ロミオとジュリエット

映画や舞台に登場するジュリエットは、

多くの場合、前髪を額の真ん中から分け、

編んだ髪を後ろで束ねた清楚な姿で描かれる。

物語の舞台の14世紀イタリアでは、

女性は額を出すのが美しいとされ、

編み込んだ髪に真珠やリボンを絡ませた髪型は、

ルネサンス絵画にもよく見られた。

当時の女性たちに自由な婚姻はなく、

10代半ばで親同士が決めた先に嫁ぐのが常だった。

持参金のない女性は嫁ぐこともできず、修道院に入れられたという。

縄にも似た後ろ髪に、女性たちが従順を強いられた不幸な時代を重ねてしまう。

髪をほどいたジュリエットは、感情のまま動き、自由に髪を波打たせる。



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2008.9-10

平成20年9月15日発行17号(隔月15日発行) 第17号(9月-10月) 発行人:竹内文則 発行人:財団法人埼玉県芸術文化振興財団 〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500